



Title	音声的・形態的特徴を反映させたcat./cast.コード混在文 : カタルーニャ語東部方言話者の音響分析から
Author(s)	蔵満, 啓太
Citation	Estudios Hispánicos. 2026, 50, p. 71-93
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/104503">https://doi.org/10.18910/104503</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 音声的・形態的特徴を反映させた cat./cast. コード混在文

—カタルーニャ語東部方言話者の音響分析から—<sup>1</sup>

蔵 満 啓 太

## 0. 目的

本稿の目的は、筆者が2025年3月11日から同月26日までの期間、カタルーニャ語母語話者を対象に実施したインフォーマント調査からみえる *castellanisme* とコードスイッチングの相関性について記述することである。はじめに、インフォーマント調査に含まれるタスクについて詳細にまとめ、対象とした *castellanisme* の形態的、音韻的特徴をカスティーリャ語の形式と比較しながら指摘する。その後、抽出された標本から導き出される上限値および下限値、つまり「信頼区間 (*interval de confiança*)」を計算し、その間に母数が含まれる表現を用いて推定する統計手法である区間推定 (*estimació per intervals de confiança*) を用い、当該語彙の母音弱化現象<sup>2</sup>の有無を判断する。この調査結果からわかる音声実現の差異を考慮し、母音弱化現象が観察された語彙を「*castellanisme*」、観察されなかった語彙を「コードスイッチング (*canvi de codi*)」とした。まとめとして、従来のコードスイッチング理論 (Juarros-Dausa, 2014) とコード混在理論 (原, 2012) を概観し、スペイン、カタルーニャ州バルセロナにおけるカタルーニャ語とカスティーリャ語の二言語併用の実情を記述する。

## 1. インフォーマント調査

筆者は、カタルーニャ語を第一言語とする話者のスペイン語由来語の発音とそれについての意識との相関関係を明らかにすることを調査目的とするインフォーマント調査を2025年3月11日から2025年3月26日の期間、スベ

<sup>1</sup> 本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP 2138 の支援を受けたものである。

<sup>2</sup> 母音弱化現象とは、弱勢音節に位置している母音が別の音価へと変移する音韻、音声現象のことである。カタルーニャ語東部方言は /a, e, ε/ > [ə], /o, o/ > [u]、カタルーニャ語西部方言では /ε/ > [e], /o/ > [o] の変化がみられ、本稿はその母音弱化の研究の一環である。

イン、カタルーニャ州バルセロナでおこなった<sup>3</sup>。カタルーニャ語の方言体一覧および各国、各地域の分布に関しては、蔵満 (2025, 1-3) において提示されている。調査対象者はバルセロナ出身、カタルーニャ語中央方言、バルセロナ方言、タラゴナ方言を包括するカタルーニャ語東部中央方言話者 16 名で男性 4 名、女性 12 名の内訳である。インフォーマントのうち、15 名が 20 歳代であるが、1 名のみ 51 歳女性であった。

### 1.1 インフォーマント調査の概要

本項ではインフォーマント調査の概要について記述する。調査は 3 パートに大きく分けられ、まず、1. 氏名 (nom i cognoms)、2. 年齢 (edat)、3. 出生地 (lloc de naixement)、4. 使用方言 (dialecte que parles)、5. 18 歳まで住んでいた地域 (lloc on vivies fins als divuit anys)、6. カタルーニャ語を使用する場面 (situacions en què fas servir el català) の 6 項目<sup>4</sup> から構成されるインフォーマントの属性について記入してもらう。これは各インフォーマントの属性の今後実施する調査との相関をあきらかにするためである。とくに言語的に非常に類似するカタルーニャ語とカステイーリャ語を日常的に使用する場面が多い地域では、青年期である 18 歳までどの地域に住んでいたのか、日常的に両言語をどれくらいの割合で話しているのかが発音の実現、カステイーリャ語由来語に対する意識に大きく関与するのではないかと思われるため、この項目の把握が不可欠であるといえる<sup>5</sup>。つぎの表 1 は今回のインフォーマント調査の属性に関する

<sup>3</sup> 録音機材は、Zoom 社の H3-VR を使い、バルセロナ市内の図書館やバルセロナ自治大学およびバルセロナ大学の講義室などできるだけ周囲の雑音レベルが低く、騒音機能の備わる施設を使用した。

<sup>4</sup> インフォーマントに直接見せて記入してもらう方式を採用したため、動詞が二人称単数現在に活用している質問がいくつか存在する。

<sup>5</sup> 本研究の主眼ではないため、本稿では詳述していないが、インタビューでは castellanisme に対する意識についても調査した。これは、属性の質問番号 5, 6 に付随して、青年期までおかれていた環境下でのカタルーニャ語の使用に加え、castellanisme に対する意識を調査するために、以下の質問をおこなった。

1. Què en penses, dels castellanismes? 「castellanisme に関してどう思いますか。」、2. Quan parles amb amics, família, professors, etc., fas servir castellanismes? Si n'utilitzes alguns, quines paraules? Amb quina freqüència? 「友人や家族、先生などと話すとき、castellanisme を使いますか。たとえばどのような語彙があげられ、それらをどれくらいの頻度で使われていますか。」、3. Podries enumerar alguns castellanismes que has sentit sovint? 「頻繁に聞く castellanisme を教えてください。」、4. Et sonen bé o estranys els castellanismes en les frases que has llegit abans? 「先ほど読んでもらった castellanisme の文章に違和感はありませんか。」、5. N'hi ha alguns de les frases anteriors que empres en converses quotidianes? 「先ほど読んでもらった castellanisme 文で、日常の会話において使用される文、castellanisme はありましたか。」

る回答をまとめたものである。

表 1：インフォーマント調査協力者の属性一覧

	2	3	4	5	6
1	25	Barcelona	barceloní	Barcelona	Amb el seu pare o alguns amics
2	23	L'Hospitalet de Llobregat	barceloní	Vallirana	Àmbit acadèmic (ha dit que batxillerat i universitat), àmbit administratiu (ha dit que a l'ajuntament, l'hospital, etc.), al lloc de treball (abans), vida quotidiana
3	26	Olot	gironí	Olot	Amics, esport, quan vaig a comprar i menjar a restaurants
4	23	Xina	nord-occidental	Tarragona	Dia a dia, amb la família i amb els amics
5	23	Barcelona	barceloní	Barcelona	Amb part de la família, universitat, treball i burocràcia
6	20	Barcelona	barceloní	Valldoreix	Família, escola, feina
7	23	Barcelona	barceloní	Barcelona	Escola, espai, asuntos oficials
8	27	Manresa	barceloní	Sant Salvador de Guardiola	Dia a dia amb la família i amb els amics que viuen per la zona on visc. A la feina en contextos administratius
9	51	Barcelona	barceloní	Cerdanyola del Vallès	Feina, reunions amb amics...
10	27	Terrassa	barceloní	Rubí	Acostumo a utilitzar-lo en l'àmbit professional, per la feina (professora)
11	20	Barcelona	barceloní	Barcelona	Família (menys la meva mare), amigues, professors, a la feina...
12	29	Barcelona	barceloní	Barcelona	Amics, família, situacions de dia a dia
13	23	Barcelona	barceloní	Barcelona	A diari, sobre tot per comprar
14	24	Barcelona	barceloní	Barcelona	Feina, escola, amics
15	22	Barcelona	barceloní	Sant Boi del Llobregat	Per parlar amb la gent de la facultat
16	24	Terrassa	barceloní	Terrassa	Quan parlo amb alguns amics o temes administratius a la universitat

次に、インフォーマントの母音空間を測定するために、用意された 10 語<sup>6</sup>(pineda「松林」<sup>7</sup>/pi.ne.da/ [pi.'nɛ.ðə], ciri「大きなろうそく」/si.ri/ ['si.ri],

<sup>6</sup> いずれの語も、カタルーニャ語、日本語訳、音素表記、音声表記の順に記述しており、アクセントのある音節には音声表記内に記号'を付している。

<sup>7</sup> 以降、castellanisme の右隣に記載している日本語訳は筆者によるものである。

metge「医者」/me.dʒe/ [ˈme.dʒə], terra「地球；大地」/tɜ.ra/ [ˈtɜ.rə], nata「生クリーム」/na.ta/ [ˈna.tə], sort「運」/sɔrt/ [ˈsɔrt], sord「耳が不自由な；聴覚障がい者」/sord/ [ˈsɔrt], fumo「私はタバコを吸う（一人称単数現在形）」/fu.mo/ [ˈfu.mu], oportú「便宜的な；好都合の」/o.por.ˈtu/ [u.pur.ˈtu], carretera「幹線道路」/ka.re.ˈte.ra/ [kə.rə.ˈte.rə]) を各語3回ずつ声に出して読んでもらった。これらの語は、Recasens i Vives (1986) で実施されている音声分析で用いられた語彙をベースに選定されている。この Recasens i Vives (1986) はカタルーニャ語の母音と子音の周波数を測って実験音声学的な側面から各セグメントの特徴を記述した研究で、東部方言の一方言であるカタルーニャ州中央方言をとりあげ、母音の F1、F2、F3、F4 までを3つの異なる環境において測定している。

(1) Recasens i Vives (1986: 130-146) が設定した3つの音環境

- a. 強勢母音 [i, e, ε, a, ɔ, o, u] : 単独で発音 #V# [V]
- b. 強勢母音および弱勢母音 : 音節初頭子音と音節末尾子音をいれて発音  
[sVk] [sV.ˈka.ri] [sV.ˈket]
- i. sic [sik], cec [sek], sec [sek], sac [sak], soc [sɔk], sóc [sok], suc [suk]
- ii. sicari [si.ˈka.ri], suquet [su.ˈket], saquet [sə.ˈket]
- c. [CVC] (contextos simètrics)<sup>8</sup> の音節構造

母音を単独で発音させるものは、事実上音節は1つしかないため自動的に強勢母音を発することになる。同様に、[sVk] という音節構造でも強勢母音の実現されるが、弱勢母音の実現を目的とする場合、sicari [si.ˈka.ri] のように音節を3音節 [sV.ˈka.ri] に増やす、もしくは suquet [su.ˈket], saquet [sə.ˈket] のように評価接尾辞 -et を派生させることで音節を増幅させ [sV.ˈket]、強勢音節を付加せざるをえない。1音節のみで [sVk] を発音する具体例として調査に使用された語は sic [sik], cec [sek], sec [sek], sac [sak], soc [sɔk], sóc [sok], suc [suk] の7語である。最後に [CVC] (contextos simètrics) は、子音の調音位置によって分類された7つのカテゴリーにそって、それぞれの子音を

<sup>8</sup> [ˈCa.Cə](contextos asimètrics) の音節構造でも同様に検証されているが、Recasens i Vives (1986: 131) の表には含まれていない。

母音の両端にオンセットとコーダとして挿入する。7つのカテゴリーは下記のとおりである。

- (2) Recasens i Vives (1986: 130-146) が設定した7つの子音カテゴリー
- a. 両唇音 (labials): [p, b, f]
  - b. 歯音、歯茎音 (dentals i alveolars): [t, d, s, z]
  - c. 硬口蓋音 (palatals): [ç, ʝ, ʃ, ʒ, ʎ, ʝ]
  - d. 軟口蓋音 (velars): [k, g]
  - e. 唇軟口蓋音 (làbio-velar)<sup>9</sup>: [w]
  - f. 軟口蓋化歯茎側面接合音 (lateral alveolar velaritzada): [l]
  - g. 後部歯茎震え音 (vibrant alveolar posterior): [r]

表2は Recasens i Vives (1986) が設定した3つの環境における各母音のフォルマント数値<sup>10</sup>をまとめたもので、弱勢母音 [i, u, ə] が音環境の特性上フォルマントを抽出できない箇所は空欄としている。表中では、強勢のある母音 /e, ε, a, ɔ, o/、環境によって強勢が付与される母音と弱母音にわかれる母音 /i, u/、母音弱化現象の結果として弱勢母音しかあらわれない母音 [ə] で検証されているが、#V# と [sVk] の両環境において強勢と弱勢の母音がペアとなっているセグメント間で F1 と F2 の周波数の違いが 10 Hz 前後であることが読みとれる。その他の母音に関しては、音環境の違い、言い換えれば母音の前後にどのような子音が配置されているかによって記録されている周波数が異なっている。下の表は、#V# および [sVk] は6人の話者、7種類の CVC 構造は3人の話者から採取されたデータの平均値として表示されている。

<sup>9</sup> [w] は唇と軟口蓋の二重調音の特徴を持つ唇軟口蓋音である。

<sup>10</sup> いずれも単位はヘルツ (Hz)。

表 2 : Recasens i Vives (1986: 131) による各環境でのフォルマント数値

Vocals		i	i	e	ε	a	ɔ	o	u	u	ə
Accentualitat		+acc	-acc	+acc	+acc	+acc	+acc	+acc	+acc	-acc	-acc
F1	#V#	245		362	543	860	634	422	268		
	sVk	259	249	367	570	713	610	424	287	278	385
	CVC	283	282	405	541	670	607	474	315	305	486
F2	#V#	2.273		2.161	2.045	1.344	863	717	633		
	sVk	2.212	2.200	1.996	1.852	1.498	1.111	1.005	892	912	1.709
	CVC	2.114	2.034	1.869	1.771	1.420	1.129	1.071	980	1.015	1.376
F3	#V#	3.101		2.755	2.688	2.619	2.688	2.701	2.626		
	sVk	2.642	2.752	2.543	2.542	2.445	2.362	2.318	2.279	2.267	2.313
	CVC	2.613	2.578	2.509	2.444	2.368	2.362	2.368	2.338	2.269	2.351
F4	#V#	3.593		3.557	3.598	3.660	3.522	3.441	3.446		
	sVk	3.581	3.615	3.551	3.631	3.743	3.303	3.345	3.288	3.430	3.590
	CVC	3.419	3.408	3.479	3.502	3.387	3.213	3.198	3.098	3.139	3.361

(表は筆者が改変して作成)

弱勢音節内と強勢音節内の同一母音実現に関しては、フォルマント周波数の数値の違いがほとんどないことが表から確認できる。しかしながら、母音にかぎらず実現される各セグメントの周波数は方言のみならず話者レベルで大きく差がでるため、各話者が発する周波数帯をまず摘出しなければならない。De Santiago Guarvós et al. (2017) も同様に、「発話の解釈は何千ものネイティブスピーカーによって、話者一人一人が他人と同一視することのできない声で実現されている。」<sup>11</sup> と述べている。談話、文、句、語、セグメントといった単位の大小に関わることなく、産出された各音声は実現されるタイミングによって発話時にしか観察されない音響的特徴をはらんでおり、それは過去、現在、未来の時間軸において同じ条件のもとで発話されたとしても完全に同一の特性を維持することは不可能である。ゆえに、年齢、声の高さ、性別、声質、発声時の状況、心情などといった複数の要因により、たとえ同一の話者であっても各母音のフォルマントを測定すると異なった数値が示される。したがって、本調査の目的であるスペイン語由来語の弱勢母音の音価 [i, ə, u]

<sup>11</sup> “... este mismo diálogo podría haber sido llevado a cabo por millones de hablantes nativos diferentes, cada uno con su voz personal e intransferible, unos acatarrados, otros nerviosos, otros mascando chicle, ...” (De Santiago Guarvós et al., 2017: 218)

『この同一の対話は無数の異なる母語話者によって発されるものであり、風邪をひいている話者、緊張している話者、ガムを噛んでいる話者など、個人に特有で、譲渡不可能な声で実現されている。』(筆者訳)

の特定には、強勢位置に存在する母音 [i, e, ε, a, ɔ, o, u] とのフォルマント値の差を明らかし、弱化の有無を正確に指摘することが必要であるため、各話者の母音三角形を作成することにした。

(3) 母音三角形作成のためにとりあげたカタルーニャ語彙

1. pineda /pi.ne.da/ [pi.'ne.ðə]
2. ciri /si.ri/ ['si.ri]
3. metge /me.dʒe/ ['me.dʒə]
4. terra /tʃ.ra/ ['tʃ.rə]
5. nata /na.ta/ ['na.tə]
6. sort /sɔrt/ ['sɔrt]
7. sord /sord/ ['sord]
8. fumo /fu.mo/ ['fu.mu]
9. oportú /o.por.'tu/ [u.pur.'tu]
10. carretera /ka.re.'te.ra/ [kə.rə.'te.rə]

調査の方法としては、各話者の母音三角形を作成するために 10 語を発音させたのち、本調査の目的であるスペイン語由来語を含んだ文章を読みあげてもらった。調査対象の文は Gencat (2008) の barbarisme の項から抽出した合計 30 文であり、そのなかに castellanisme が 60 語挿入されている。対象語句の品詞は、名詞、動詞、形容詞、副詞の 4 カテゴリーで、実際に使用した語句を品詞別にあげると、調査対象とする語数をもっとも多い名詞は、alfombra「絨毯」、altibaix「起伏；急激な変動」、avalaxa「雪崩；殺到」、bandeja「トレイ」、basura「ごみ」、bulto「膨らみ；こぶ」、canyeria「配管」、cantera「若手養成所チーム」、catarata「白内障」、cuidado「注意」、cumpleanys「誕生日」、curva「カーブ」、despedida「別れ」、farola「街頭」、fiambrrera「弁当箱」、fiera「逆上」、financiació「資金」、finura「繊細さ；上品さ」、grassa「重要な産物」、hombro「肩」、ingenier「エンジニア」、Inglaterra「イギリス」、lujo「豪華さ；贅沢さ」、mando「操縦桿」、microondas「電子レンジ」、mono「猿」、muleta「松葉杖」、ordenador「パソコン」、pedido「注文」、peladilla「シュガーアーモンド」、pildora「睡眠薬」、plano「地図；平面図」、respaldo「背もたれ」、reventon「破裂」、suministre「供給」、tamany「サイズ」、vivenda「住居」である。対象とした castellanisme の名詞の総数は 37 語で、これらの名詞の多くは、カスティーリャ語と同一の形式を踏襲しているが、

ch /tʃ/ から x /ʃ/, j /x/ から ix /ʃ/ のような一部の音韻変化や母音または子音の消失、母音交代が確認される。また、複合語である *cumpleaños* は、形態構造で *cumple* と *años* に分けられ、*años* がカタルーニャ語 *anys* に交替することで後部要素のみカタルーニャ語の形式が採用されている。名詞のつぎに多く対象としている動詞は、*acribillar*「困らせる；責めたてる」、*agobiar*「疲弊させる」、*aplaçar*「延期させる」、*augmentar*「増幅させる」、*calentar*「温める」、*conseguir*「獲得する；手にいれる」、*deletrejar*「判読する；綴りをいう」、*desarrollar*「発展させる；発展する」、*despegar*「離陸する」、*empotrarse*「衝突してめりこむ」、*enterarse*「気がつく」、*estrellar*「墜落する」、*lograr*「～し遂げる；なんとか～する（直後に不定詞）」、*olvidar*「忘れる」、*reanudar*「再開させる」、*rebassar*「超過する」の16語である。音韻的にカタルーニャ語の体系に同化させているものは *aplaçar*、*rebassar* の2語のみで、形態構造に変化が加わっているのは *deletrejar* しかみられなかった。カスティーリャ語で動詞不定詞が *-ear* の語尾を持つ *marear*「めまいを引き起こす」、*escanear*「スキャンする」、*bromear*「冗談をいう」は、カタルーニャ語では *marejar*、*escanejar*、*bromejar* となり、*e* と *a* の母音間に子音 *j* が挟まれる類推から、カスティーリャ語の *deletrear* を由来とするこの語が派生されていると考えられる。一方、形容詞は *alimentici/alimenticia*「食料の；栄養のある」、*asquerós/asquerosa*「鬱陶しい」、*assombrós/assombrosa*<sup>12</sup>「驚くべき；びっくりするような」、*empapat/empapada*「ずぶ濡れの」、*sooso/soosa*「味がない；塩の足りない」の4語を調査した。いずれもカスティーリャ語の形式 *alimenticio/alimenticia*、*asqueroso/asquerosa*、*asombroso/asombrosa*、*sooso/soosa* から形態、音韻的にカタルーニャ語化していることがうかがえる。最後に、副詞は *venga*「さあ、さて」、*después*「～のあとに<sup>13</sup>」、*bueno*「えーと」の3種類で、*venga* および *bueno* はカタルーニャ語の会話において非常に多用されるカスティーリャ語由来の談話マーカー (*marcador discursiu*) である。なお、これらの *castellanisme* を含んだカタルーニャ語全30文は本稿末尾に別表1として掲載している。

## 1.2 インフォーマント調査の音声分析と結果の考察

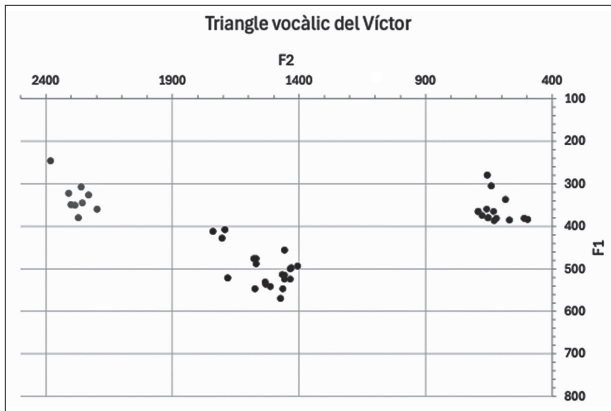
これまで述べてきたように、正確な弱化母音フォルマント数値を測定する

<sup>12</sup> 形容詞の表記は男性形、女性形の順に記載している。

<sup>13</sup> *castellanisme* の例文では、カスティーリャ語の構造と同じく前置詞 *de* が後置され、そのあとに名詞が続いている。

ためにインフォーマントに発音してもらったカタルーニャ語を 10 語のフォルマントデータから母音三角形を作成した。データ抽出のために使用した音声ソフトは Praat で、ソフト内に投影された母音および子音の音響的特徴のうち第 1 フォルマント (el formant primer: F1) と第 2 フォルマント (el formant segon: F2) を参考にしている<sup>14</sup>。これらのフォルマントを取得するためには、調査対象とするセグメントが発せられている範囲を特定し、その範囲内の各フォルマント数値の平均を出さなければならない<sup>15</sup>。その際、注意しなければならないのは一画面に表示できる範囲 (part visible) の限定である。そして、この範囲の変更による、抽出するフォルマントの数値の変異を避けるために、本分析においては、0.597658 秒の一画面表示に統一した。図 1 は、インフォーマントのうちの一ジローナ方言話者の母音 [ə, u, i] の F1 と F2 を母音三角形上に表示したものである。また、母音三角形を作成する際に、右上を接点とし縦軸は F1、横軸は F2 として設定している。

図 1：ə, u, i の母音三角形上の表示



<sup>14</sup> 各セグメントのフォルマントは基本周波数、第 1 フォルマント (el formant primer: F1)、第 2 フォルマント (el formant segon: F2)、第 3 フォルマント (el formant tercer: F3)、第 4 フォルマント (el formant quart: F4) と 5 種類測定可能であるが、母音および子音の識別には第 1 と第 2 フォルマントで十分なため、それ以外の数値の測定は省略した。

<sup>15</sup> フォルマント数値の平均を表示するために、“Get first formant” および “Get second formant” の機能を用いている。

各母音のデータにおいて、信頼される F1 および F2 の範囲を特定することが必要ではあるが、前述のとおり、話者の発音は時間軸に沿って一定であることはなく、収録時の発音の信憑性が担保される可能性は極めて低い。そのため、抽出されたフォルマント数値から導き出される上限値および下限値、つまり「信頼区間 (intervals de confiança)」を算出し、区間推定 (estimació per intervals de confiança)<sup>16</sup> と呼ばれる、当該話者において指定された確率で取得されるであろうフォルマント数値を提示しなければならない。本稿での分析のために設定した信頼係数 (nivell de confiança) は 95% である。以下の表には、カタルーニャ語 10 語の発音から導きだされた弱勢音節に位置する母音 [i, ə, u] の区間推定値の計算に使用される標本数、平均、標準偏差、標準誤差、信頼区間の数値をまとめている。

表 3：弱勢位置の母音の数値

母音 Formant	i		ə		u	
	F1	F2	F1	F2	F1	F2
n	9	9	21	21	15	15
平均	332.581643	2276.49728	500.503247	1531.18974	362.382525	623.647374
標準偏差	38.5137427	52.3337688	44.6830986	100.626052	31.3445874	59.8323427
標準誤差	12.8379142	17.4445896	9.75065152	21.9584048	8.09313767	15.4486444
信頼区間	37.4665732	50.9108396	24.2104346	54.5217440	21.0231482	40.1301887

表 3 に掲載の各フォルマント数値から 95% 信頼区間は、対象母音ごとにそれぞれ図 2、図 3、図 4 のように表示される。これらはカタルーニャ語 10 語の発音から抽出されたものであり、話者がカタルーニャ語を発する際の基準フォルマント値として推定される値である。したがって、F1 および F2 において図内黒色の軸で表示されている区間、すなわち区間推定から割りだされた 95% 信頼区間を各母音 [i, ə, u] であると判断される基準とし、castellanisme に含まれる弱勢音節位置における母音の周波数がこの信頼区間の数値の範囲内にプロットされるかが母音弱化現象の有無の判断材料となる。その比較の結果、信頼区間内の数値が採取された場合、弱勢音節内で母音弱化現象が発

<sup>16</sup> 計算には、調査で抽出されたフォルマントの総数 (n)、各フォルマント値の平均値、平均からの分布度合いをあらわす標準偏差、どの語彙においても実現される各セグメントのフォルマント数値である母集団、標本から得られた母集団の平均の推定量を示す標準誤差が用いられる。

図 2 : i の 95% 信頼区間

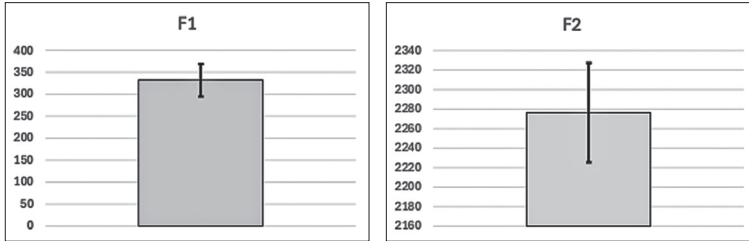


図 3 : ə の 95% 信頼区間

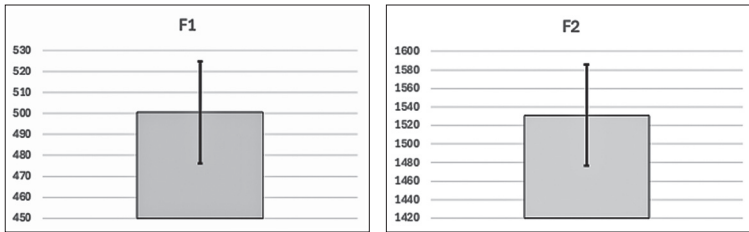
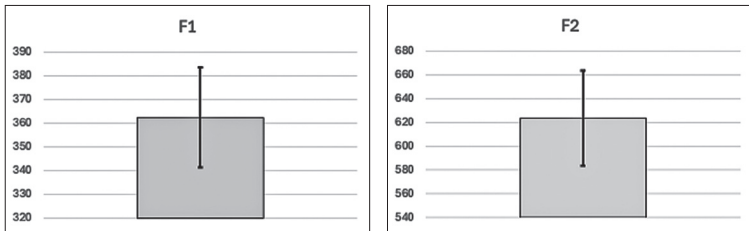


図 4 : u の 95% 信頼区間



生していると判断し、信頼区間外の数値であれば、母音弱化現象が抑制され弱化していないと判断される。以下、castellanisme の弱勢音節におけるフォルマント数値を表示しており、各語彙に引かれている下線の母音を測定した。

castellanisme の弱勢音節に置かれている母音 /o/ と 95% 信頼区間を比較した結果、いずれの語彙も F1、F2 とともに信頼区間内に観察されることはなかった。logro<sub>o</sub>、desarrollar、planos、respaldo の F1 は基準の母音 [u] の 95% 信頼区間よりも高く、F2 に関してはすべての対象の語で高い数値が検出されたため、母音弱化していないことがわかる。また、F1、F2 のどちらも基準よりも数値が

表 4: castellanisme のフォルマント数値

castellanisme	F1	F2
logro	404.584278	1200.09272
altibaixos	368.341156	1148.60201
desarrollar	420.483012	955.601188
planos	433.537945	1150.94945
respaldo	394.948815	1188.43215

高いことから、母音弱化前の母音 [o] に近似しているともいえる。したがって、altibaixos 以外の語彙はカタルーニャ語ではなく、カスティーリャ語がカタルーニャ語文に介在しているといえる。そのような形態的、音韻的、音声的観点からカタルーニャ語の体系に同化していないカスティーリャ語の流入を「コードスイッチング (canvi de codi)、反対に同化している語彙を「castellanisme」と本稿では定義する。このコードスイッチングとして実現されている語彙も、そうでない語彙も、F1 の数値は別表 2 にまとめているとおり、カタルーニャ語 10 語の発音で採られた [ɔ] の周波数 538Hz, 496Hz, 490Hz および [o] の周波数 488Hz, 472Hz, 472Hz よりも低く [u] に近似していることが判明した。これはおそらく、altibaixos の後部要素がカタルーニャ語化しているからで、形態的な特徴が話者の発音へ少なからず影響を与えていると考えられる。

## 2. cat./cast. コード混在の様相

本研究の主眼はカタルーニャ語の発話文に介在する castellanisme の音声面における言語学的特徴を指摘することであり、まず、カタルーニャ語およびカスティーリャ語が混交するこの現象のことを「cat./cast. コード混在」と呼ぶことにして考察をすすめる。本節では、cat./cast. コード混在文の具体的な特質をあきらかにするため、2.1 で先行研究におけるコードスイッチングの種類を確認し、2.2 ではカタルーニャ語における cat./cast. コード混在の分析に援用するために参照した原 (2012) の理論をまとめる。そのうえで、上記の母音弱化現象に焦点をあてた音声分析との相関性について考察する。

### 2.1 従来のコードスイッチング理論

コード混在についてコードスイッチングと対比するために、まず、Juarros-Daussa (2014) で述べられているコードスイッチングの定義を確認する。

(4) Codeswitching の定義 (Juarros-Daussa, 2014)<sup>17</sup>

El canvi de codi, anomenat també canvi de llengües o desplaçament de codi, és una característica de la parla bilingüe que consisteix en l'alternança de dues llengües, per part d'un mateix parlant, dins d'un únic discurs, oració o constituent.

『コードスイッチングは canvi de llengües や desplaçament de codi とも呼称され<sup>19</sup>、ただひとつの発話、文、構成要素といった同一話者のとある一部分で二言語の交替が生じるバイリンガル話者の発話の一特徴である。』

Juarros-Daussa (2014) は、コードスイッチングを、ある言語の発話内におけるいかなる構成要素、形態素、接辞、語、句、文単位で別の言語へと切り替わること、と定義している<sup>20</sup>。このような現象は「文内コードスイッチング (el canvi de codi interoracional)」と呼ばれ、Blas Arroyo et al. (2000) はつぎのような

<sup>17</sup> 研究者によっては、状況や場所、対話者との関係性によって別の言語を運用することをコードスイッチング (canvi de codi, canvi de llengües)、言語使用のなかで他の言語の言語学的要素がはいりこんでいる事象をコードミクシング (barreja de codi, barreja de llengües) と使い分けることがある。

<sup>18</sup> Juarros-Daussa (2014) がカスティーリャ語で記載したものがバルセロナ大学 (Universitat de Barcelona) の Artiga Álvarez によってカタルーニャ語に翻訳されたものである。

<sup>19</sup> この用語に関して、コード (codi) は厳密には2つ以上の言語 (llengües) であることから、canvi de llengües や desplaçament de codi にしばしば置き換わる。後者は「交替」をあらわす canvi の類義語である desplaçament が用いられている。

<sup>20</sup> 対して、従来のコードスイッチングの捉え方を一新する研究も存在し、バイリンガル教育の現場で注目をあびている Translanguaging 理論である。この理論は、Juarros-Daussa (2014) が述べているような言語差異、L1 (Llengua 1) と L2 (Llengua 2) や基盤言語の特定を考慮することなく、バイリンガル話者の脳内には統合された言語レパートリーが唯一存在するという考え方にもとづく。その言語レパートリーには複数の言語の語や句、表現形式といった語彙分野、音韻分野、意味分野、統語分野など各言語分野において内蔵されていると考えられる。Ofelia, et al. (2014) はつぎのように説明している。

[Translanguaging is] an approach to the use of language, bilingualism and the education of bilinguals that considers the language practices of bilinguals not as two autonomous language systems as has been traditionally the case, but as one linguistic repertoire with features that have been societally constructed as belonging to two separate languages.

『[トランスランゲージングとは、] 二言語併用話者の言語実践を、従来議論されてきたように、ふたつの独立した言語体系としてみなすのではなく、社会的にふたつの異なる言語に属するものとして構築されてきたひとつの言語レパートリーとして考える言語使用やバイリンガリズム、バイリンガル教育へのアプローチのひとつである。』

例をあげている。

(5) 文内コードスイッチング例 (Blas Arroyo et al., 2000)

- a. I me posava de vuelta y media perejil.
- b. I deia penjaments de mi. / I malparlava de mi. (カタルーニャ語)
- c. Y me ponía de vuelta y media. / Y me ponía como hoja de perejil.  
(カスティーリャ語)  
『彼(女)は私のことを口汚く罵っていた。』

カスティーリャ語の成句表現 *poner a alguien de vuelta y media* もしくは *poner a alguien como hoja de perejil* 「～を口汚く罵る」が文構造のベースとなり、語頭の接続詞 *i* 「それと；そのうえ；また」と動詞 *posar* がカタルーニャ語の要素である。対して、カタルーニャ語の同意の表現には、*dir penjaments d'algú / malparlar d'algú* が存在する (Optimot, 2025) が、もし基底をカタルーニャ語とするのであれば *decir penjaments d'algú* と表現することになると思われる。また、一人称間接目的格代名詞 *me* は、カタルーニャ語中央方言には *em* が存在するが、バレアレス方言やバレンシア方言では *me* が使用されるため一概にカタルーニャ語かカスティーリャ語かを判断することはできない。このように、ある言語形式がベースとなり、語彙が別の言語のものに切り替わる「文内コードスイッチング」は *cat./cast.* コード混在において非常に頻繁に観察されている。さらに、Klee et al. (2009) は文内コードスイッチングの例において、常に基盤となる言語を特定することができるとはかぎらないと指摘している。

(6) アメリカ合衆国のカスティーリャ語 (Klee et al., 2009)

- a. I am also having a good time. (英語)
- b. Yo también me lo estoy pasando bien. (カスティーリャ語)
- c. Yo también estoy teniendo un buen tiempo. ??  
『私もまたよい時間を過ごしている。』

(6c) では、語彙はすべてカスティーリャ語で記述されているが、文法構造やコロケーションが英語であることが特徴である。Klee et al. (2009) では、コードスイッチングの文における基盤言語の曖昧性が述べられているものの、(6c) の基盤言語は英語であると明確に判断できると思われる。なぜなら、英語の

統語構造が話者の脳内にインプットされていなければこの文を生成することは不可能であるからである。語彙項目だけでは参照可能であったとしても、文を作成するのに不可欠である語彙を並び替えるための箱すなわちフレームワークとなる言語の構造が不足していることになる。

さらに二言語併用話者によって産出されるコードスイッチング文では、異なるコードによる語や修辭的な疑問文が語末に挿入されることが頻繁にある。とりわけ、カタルーニャで話されているカスティーリャ語文では、文頭や文末に置かれる談話マーカのコードがカタルーニャ語に入れ替わることがあるが、これを Juarros-Daussa (2014) は「付加型コードスイッチング (el canvi de codi d'afegitó<sup>21</sup>)」と呼んでいる。

(7) 付加型コードスイッチング例 (Blas Arroyo et al., 2000)

- a. Deben de haber empezado las rebajas, oi?
- b. Deben de haber empezado las rebajas, ¿verdad? (カスティーリャ語)  
『もう割引が始まっているはずだよね?』

(7) では、主となる文の構成要素および統語規則はカスティーリャ語の体系にもとづいており、付加疑問をあらわすカタルーニャ語の小辞 (*partícula gramatical*)、会話上の口癖 (*afegitó*) である *oi* が文末に付加されていることから、基盤言語はカスティーリャ語であるといえる。たとえば、*castellanisme* のインフォーマント調査で使用した副詞 *venga*, *bueno* はカタルーニャ語の発話で極めて多く観察される文頭の談話標識であり、これらの語は *cat./cast.* コード混在文における付加型コードスイッチングの例である。

しかしながら、Juarros-Daussa (2014) では、文内コードスイッチングと付加型コードスイッチングが独立して例示されており、あたかも異なるコードスイッチングの様相であるかのように説明されている。厳密には、付加される当該の談話マーカは中心となる文の意味的あるいは語用論的効果を生じさせるため、文の一部とみなす必要があると考えられる。ゆえに、本稿では、コードスイッチングの種別として「文内コードスイッチング」と「文間コードスイッチング」の2種類をとりあげ、「文内コードスイッチング」の下位区分に「付加型コードスイッチング」を位置づける。

<sup>21</sup> 先行研究に該当する用語が見当たらなかったため、筆者が付与した名称である。

- (8) コードスイッチングの類別
- a. 文間コードスイッチング
  - b. 広義の文内コードスイッチング
    - b1. 狭義の文内コードスイッチング
    - b2. 付加型コードスイッチング

一方で、文内の構成要素の言語交替ではなく、文が区切られ、新たに別の文が始まる際に異なる言語へと移行するコードスイッチングは「文間コードスイッチング (el canvi de codi intraoracional)」と呼ばれる。文中コードスイッチングと同様に Blas Arroyo et al. (2000) の例文を引用する。

- (9) 文間コードスイッチング例 (Blas Arroyo et al., 2000)

La tia desgraciada va i me diu l'altre dia: A ver si limpiamos el portal, ¿eh?

『意地悪なおばさんは別の日、私のところへ来てこんなことを言ってきた：玄関はもう掃除できたわよね?』

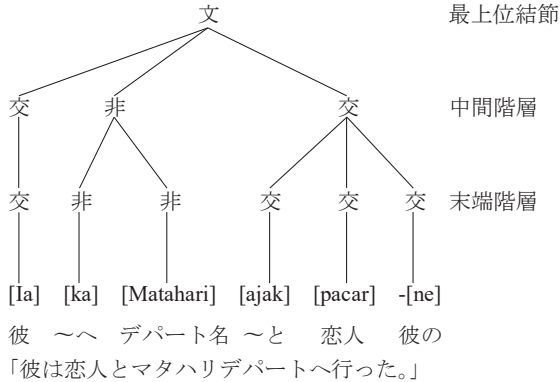
Blas Arroyo et al. (2000) が文間コードスイッチングとしてとりあげている (9) は、第一文がカタルーニャ語、続く第二文がカステイーリャ語で構成されている。それぞれ第一文をカステイーリャ語、第二文をカタルーニャ語に翻訳すると La tía desgraciada va y me dice el otro día., A veure si netegem el portal. である。ピリオドではなくコロンの区切られているものの、明白な文境界で言語が切り替えられている一例で、多言語併用地域において、異なる言語を優勢言語とする複数の話者と会話をする際にしばしば交替が起き、その好例としてとりあげられることが多い。

## 2.2. コード混在理論による交替領域および非交替領域

最後に、cat./cast. コード混在文を形態構造、統語構造、談話構造の観点から統合的に分析するために、原 (2012) によって新たに導入された交替領域および非交替領域の概念を確認する。原 (2012) は、異なる敬語法および敬語語彙を持つバリ語とインドネシア語の比較から、バリ語・インドネシア語コード混在 (BI コード混在) 文の統語構造の規則性、談話構造の機能、バリ語の敬語使用からの影響を考察している。それによると、コード混在が起こりう

る単位は、二言語併用話者の各言語で異なる語彙形式を持つ「交替領域 (非共通語彙要素)」とその二言語間の同一形式あるいは等価値的要素が不在による交替不可の「非交替領域 (共通要素、借用的要素)」である。

(10) BI コード混在文の階層構造<sup>22</sup> (原 (2012) から引用)



(10) では、BI コード混在文で構成される各語の語彙的特徴として、それぞれ具体的な語彙に結ばれる末端階層が、交替領域または非交替領域で表示されている。[la]、[ajak]、[-ne] はバリ語、[pacar] はインドネシア語特有の語彙である一方、非交替領域である [ka]、[Matahari] はバリ語およびインドネシア語で同一の形式が存在し、二言語間で共通しているため交替できない。その上位階層である中間階層では文において同じ領域が隣接せず、常に交互に分布し、また、pacar「恋人」-ne「彼の」のように名詞に接辞が付加されているケースから、BI コード混在の最小単位は「語」ではなく「形態素」として存在している。この交替領域および非交替領域の概念を、cat./cast. コード混在に援用することを試みる。cat./cast. コード混在文では、BI コード混在文に比べて、非交替領域である言語間共通語彙が少ないため、ほとんどの統語位置において交替領域であるが、castellanism が介在すると通常の発話よりも非交替領域の範囲が広がる。

<sup>22</sup> 「交」は交替領域、「非」は非交替領域の略記である。

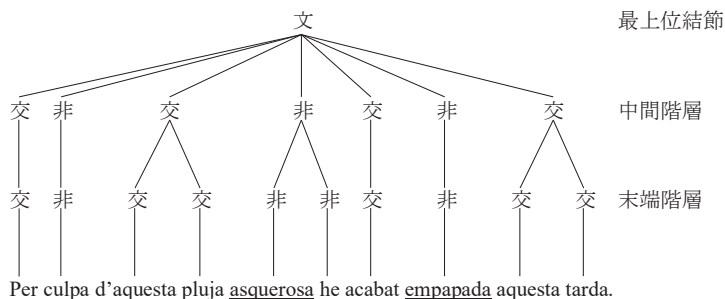
(11) 実際にインフォーマント調査で使用した cat./cast. コード混在文例

3. Per culpa d'aquesta pluja asquerosa he acabat empapada aquesta tarda.

『今日の午後、鬱陶しい雨のせいで私はずぶ濡れになってしまった。』

(11) の例文では、culpa「責任」、he「助動詞 haber の第一人称単数形」のみがカタルーニャ語に存在するカステイーリャ語との共通語彙、つまり非交替領域であるが、castellanisme である asquerosa「鬱陶しい(女性形)」と empapada「ずぶ濡れの(女性形)」を含むと全体の40%を非交替領域が占めることになる。

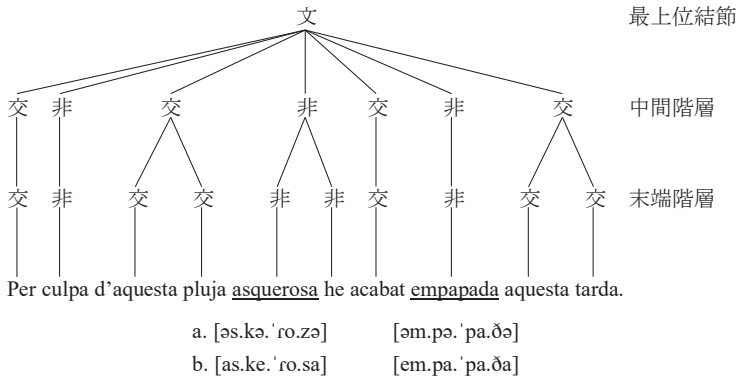
(12) cat./cast. コード混在文の階層構造



原(2012)で用いられているBIコード混在の特徴と同様に、cat./cast. コード混在も、交替領域および非交替領域からなり、中間階層で両領域が交互に出現する。また、asquerosaやempapadaとは異なり、カステイーリャ語と同一の形式を保持していない語、すなわちカタルーニャ語化されているcastellanismeも当該の「コード混在理論」によって説明できる。たとえば、動詞deletrejarはカステイーリャ語deletrearから作られた語彙であるが、カステイーリャ語語根deletrとカタルーニャ語動詞接尾辞-ejarという結合構造を仮定すれば、どちらも両言語に共通していない語彙項目、すなわち交替領域とすることが可能である。しかし、いずれの領域に関しても判断する際に音声的な差異は考慮されていないため、インフォーマント調査であきらかになった弱

現象の有無でカステイーリャ語との音声的差異がみられるのかを確認することが不可欠である。しかしながら、バリ語とインドネシア語のコード混在を統語論、語用論的アプローチにより図式化した原(2012)では、音声的な変異が含まれていない。本研究でとりあげているカタルーニャ語に導入されている *castellanisme* に関しては、カタルーニャ語の体系に沿っているかどうかにより具現化される発音が異なる。そこで、(12)でとりあげられた *asquerosa* と *empapada* を再度引用すると、形態的には非交代領域であると記載したものの、これら2つの語彙はカタルーニャ語の体系に沿った発音ではなく、カステイーリャ語としてコードが当てはめられたように発音される場合がある。

(13) cat./cast. コード混在文の階層構造



このように、2種類の発音が認められることを考慮すると、どちらかの音声的実現によって領域が交替することがあることに留意しておかなければならない。

### 3. 今後の課題

本稿では、はじめにスペイン、カタルーニャ州バルセロナで実施された3パート構成のインフォーマント調査の概要をタスク順に考察した。2パート目におこなったカタルーニャ語10語の発音から母音三角形を作成する試みは、Recasens i Vives (1986)をはじめとする先行研究ではとりあげられていないものの、流動性のある話者の音価を正確に測定するために非常に重要であ

ることがわかった。したがって、その基盤となる数値とインフォーマントが読みあげた *castellanisme* の周波数を比べることにより、母音弱化現象の有無を科学的に判断することができた。さらに、従来のコードスイッチング理論に加えて、原 (2012) の「コード混在理論」を援用することで、カタルーニャ語とカスティーリャ語のように言語的に極めて類似しているコード混在の特徴を統語論的および語用論的に説明することが可能である。一方で、原 (2012) は音声的なバリエーションには焦点をあてていないため、カタルーニャ語における *castellanisme* のように話者によって音声的変異が観察されるものに関しては、領域の判断は可変的であることに注意しなければならない。

また、本研究において F1 と F2 の数値を用いた音響的検証をおこなうことができたのは *logro*, *altibaixos*, *desarrollar*, *planos*, *respaldo* の 5 語のみであったため、引き続き *castellanisme* の音響的特徴を調査する必要がある。また、属性に関する質問と *castellanisme* についてのインタビューで得られた言語外的要因がどのように *castellanisme* に作用するのかは不明であるため、この点に関してもさらに追究すべきである。

#### 4. 参考文献

- Blas Arroyo, José Luis et al. (2000). *Principles of variationism for disambiguating language contact phenomena. The case of loan Spanish nouns in Catalan discourse*. *Language Variation and Change*, vol. 12, pp.103-140.
- Bonet, Eulàlia et al. (1998). *Fonologia catalana*. Barcelona: Editorial Ariel, S.A.
- De Santiago Guervós, Javier et al. (2017). *Fundamentos para la enseñanza del español como 2/L*. Madrid: Arco/Libros-La Muralla, S.L.
- Generalitat de Catalunya (Gencat). (2005). Xarxa Telemàtica Educativa de Catalunya (XTEC). *Dialectologia catalana*. Disponible a: <<http://www.xtec.cat/~aribas4/llengua/dialectologia/index.htm>> [Consulta: 22 de juliol de 2022].
- Generalitat de Catalunya (Gencat). (2008). *Curs de LLENGUA CATALANA Nivell C*. Barcelona: Generalitat de Catalunya.
- Generalitat de Catalunya (Gencat). *Optimot Consultes lingüístiques*. Disponible a: <<https://aplicacions.llengua.gencat.cat/llc/AppJava/index.html>> [Consulta: 15 de desembre de 2025].
- Juarros-Daussa, Eva. (2014). *Canvi de Codi*. Universitat de Barcelona. Disponible a: <<http://www.ub.edu/diccionarilinguistica/content/canvi-de-codi>> [Consulta: 1 de

- desembre de 2023].
- Klee, Carol et al. (2009). *El español en contacto con otras lenguas*. Washington DC: Georgetown University Press.
- Ofelia, García et al. (2013). *Translanguaging: Language, Bilingualism and Education*. Hampshire: Palgrave Macmillan.
- Recasens i Vives, Daniel. (1986). *Estudis de fonètica experimental del català oriental central*. Barcelona: Publicacions de l'Abadia de Montserrat.
- Recasens i Vives, Daniel. (1996). *Fonètica descriptiva del català*. Barcelona: Institut d'Estudis Catalans.
- 蔵満啓太 (2025)「母音弱化現象の通言語的解釈と CP, CF 案の分析よりカタルーニャ語にみられる対称性の有無」*Estudios Hispánicos*, vol. 49, 大阪大学外国語学部スペイン語部会, pp. 31-51.
- 日本統計学会 (2020)『改訂版 日本統計学会公式認定統計検定 2 級対応 統計学基礎』東京図書.
- 原真由子 (2012)『インドネシア・バリ社会における言語使用—バリ語とインドネシア語のコード混在—』大阪大学出版会.

別表 1 : インフォーマント調査で使用した cat./cast. コード混在文

1. Està agobiat perquè l'han acribillat a preguntes durant la presentació.
2. Deletreja'm aquesta taula; no logro entendre què em dius.
3. Per culpa d'aquesta pluja asquerosa he acabat empapada aquesta tarda.
4. Hi ha hagut una avalaxa de queixes després de publicar-se el decret.
5. Aquest any l'equip fitxarà dues noves jugadores de la cantera.
6. Cal profunditzar en els problemes derivats dels altibaixos del mercat de la vivenda.
7. Han hagut d'aplaçar la tornada perquè els avions no podien despegar pel mal temps.
8. Li van fer una despedida de soltera que no olvidarà mai.
9. Apreta el botó dret del ratolí si vols augmentar el tamany de la lletra.
10. Tot i portar el dinar en una fiambrella, he hagut de calentar-lo al microones.
11. Els fets es van desenvolupar molt a prop de la duana.
12. He deixat els plans de l'enginyera sobre el respald de la butaca.
13. La finura no és un dels seus millors atributs quan es posa fet una fiera.
14. Tingues cuidado amb els píldores per dormir.
15. Pel seu cumpleanys li van regalar un anell amb un brillant de vint-i-quatre quirats.
16. L'aeroplà es va estrellar per un fallo en la palanca de mando.
17. Ha fet un pedido de pastes alimentícies que rebassa el pressupost inicial.
18. Ahir vaig caure enmig del carrer i ara m'ha sortit un bulto al cap.
19. L'escudella era un pèl sossa, però les postres són excel·lents.
20. Han conseguit una bona financiació per comprar-se l'ordenador.
21. Se m'ha tombat una bandeja plena de peladilles.
22. En Martí ha anat a llençar la basura al conteníer.
23. Encara no t'has enterat que no li agraden els ous ferrats.
24. Després d'una festa assombrosa pel lujo dels assistentes no va quedar gens de cava.
25. Han reanudat el sumistre d'aigua després del reventon a les canyeries.
26. És lògic que la gent no vulgui consumir carn de mono o de serp als restaurants.
27. A la meva tieta, que encara va amb muletetes, ara l'hauran d'operar de catarates.
28. Estan traient la grassa de l'alfombra amb un producte important d'Inglaterra.
29. Tinc l'hombro mig dislocat i el cos adolorit pels cruiximents.
30. Va agafar la curva a massa velocitat i es va empotrar amb una farola.

音声的・形態的特徴を反映させた cat./cast. コード混在文（蔵満）

別表2：インフォーマントの各母音の周波数一覧

0.597658 Formant Frequency: 4500Hz	F1 (tònica)	F2 (tònica)	F1 (àtona)	F2 (àtona)
i àtona			351.4901443	2285.056935
			308.4691726	2260.425652
			380.2874189	2270.17129
			345.095555	2255.958111
			350.2583572	2299.201673
i tònica			247.0085725	2381.394619
			323.5616176	2309.135365
			359.9436845	2196.069434
e	424.7112533	2179.774203		
	452.9679377	1928.940342		
	380.8429822	2023.717985		
	440.9477229	1907.03123		
	407.8194889	2021.501278		
	462.2532768	1912.010347		
è	506.148973	1765.048452		
	575.7575327	1858.076107		
	463.8986289	1826.96892		
	576.9583489	1817.789767		
	479.1589903	1755.241699		
a	549.8168636	1817.321118		
	655.2124426	1491.126736		
	522.7006784	1487.878045		
o	507.9591891	1373.891794		
			488.700072	1569.674713
			407.8936239	1692.745893
			547.6822764	1463.534089
			569.488449	1472.944668
			536.7645438	1531.043775
			547.1674238	1572.20629
			521.6966533	1680.919108
			524.8746826	1456.552954
			412.2192612	1738.420708
			515.1088223	1455.699973
			500.9065341	1434.933302
			541.6442334	1512.974951
			530.6020384	1533.155605
			476.3239142	1567.909804
o			456.1529962	1457.642176
			428.5861562	1704.414845
			493.6429425	1405.35104
			497.6243682	1429.301781
			513.4632406	1464.973455
			523.9069459	1433.398457
			476.1190123	1577.186944
o	538.9762174	1188.594329		
	496.6216142	1092.097175		
	490.2659291	1067.032243		
o	488.2682879	1099.943307		
	472.7145763	1000.312414		
	472.6994552	819.6487183		
u			280.5183825	656.1932133
			359.950896	658.3322095
			365.5980268	631.0393558
			337.8082709	582.9750585
			382.2070476	509.1339045
			380.7617662	652.6444746
			305.506667	639.8442127
u tònica			384.5767651	497.1159062
			380.6256425	651.3576593
			381.8544409	618.8814174
			374.5163232	675.8514626
			385.1030956	568.3466331
		365.0446144	692.5667716	
		386.5635002	629.208464	
		365.1024433	691.2198732	